



チュートリアル課題 第二の人生

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	チュートリアル課題
巻	2014
号	S6
発行年	2014-08-22
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032344

2014年度 Segment. 6

課 題 No. 1

課題名：第二の人生

課題作成者：神経内科学
神経内科学
神経内科学
解剖学

長尾 毅彦
飯嶋 睦
北川 一夫
藤枝 弘樹



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

和雄さんは66歳。定年退職から1年が過ぎ、そろそろ新しい事を始めようと考え始めています。田舎に移住しようか、ボランティアに登録しようか、奥さんと話をしていました。ある日、普段と変わりなく昼のニュースを夫婦で見たあと、奥さんは近所のスーパーに30分ほど買い物に行き、戻ってきたところ、和雄さんはソファに横になっていました。1時になってもそのままだったので、不思議に思った奥さんが声をかけたところ、視線が合わず、声もまったく出ない状態でした。

シート2

奥さんは心配になって、血圧の薬をもらっている家庭医の先生に電話で相談することにしました。状態を説明すると、すぐに救急車を呼んで大学病院に行くように指示されました。救急隊員が到着し血圧を測ってみると176/108 mmHg、脈拍は94/分 で不整脈がありました。

やはり話しかけても言葉は出ません。指示すると左手を握ることはできましたが、右手にはまったく力が入りませんでした。救急車はただちに大学病院に向かいました。

シート3

和雄さんと奥さんを乗せた救急車は、通報から30分後に女子医大病院に到着しました。病院到着時の血圧は168/100mmHg、脈拍は90/分で脈の不整はありませんでした。診察した救急外来の医師は、顔面を含む右片麻痺と失語症を確認し、いつから症状があったのか尋ねましたが、奥さんは買い物に行っている間なのでわからないと答えました。数年前から血圧が高くなり、近所の医者から薬をもらっていることも伝えました。

シート4

心電図、血液検査を受け、頭部CT検査、頭部MRI、MRA検査を施行後、直ちに入院することになりました。MRAを見た医師から、以前に一時的にフラフラしたことはないかと聞かれましたが、ご本人が喋れないので、確認できませんでした。

シート5

担当医は、脳梗塞急性期の血栓溶解療法を実施しました。しかし治療開始から1時間経っても、症状に改善がありません。

医師は奥さんに血管内治療を追加することを相談しました。かなり危険な治療でしたが、幸い治療は成功し血管は再開通、右片麻痺は改善しましたが、重い失語症が後遺症で残りました。原因は心臓の不整脈からと説明されました。

入院翌日、リハビリテーション科の医師がベッドサイドを尋ねてきました。奥さんは、まだ安静にしていなくて良いのかと心配になり、右半身が不自由で思い描いていたこれからの生活ができるのかと心細くなってきました。